

## 平成 25 年度第 1 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

1. 日時 平成 25 年 7 月 16 日(火)10:30-12:00

2. 場所 国立情報学研究所 19 階会議室

3. 議事内容

① 本部長の挨拶

喜連川本部長から、今年度から国立情報学研究所の所長に着任し、本会議の本部長に就任した旨挨拶があった。

② 新委員の紹介

喜連川本部長から、資料 1 に基づき、交代(西尾章治郎委員、和田耕一委員)、新規(井宮淳委員)について紹介があった。

③ SINET4 の総括と次期 SINET について

漆谷委員から、資料 3 に基づき、SINET4 の総括と次期 SINET の構想について説明があり、次期 SINET の方向性について了承された。また、他の委員からの意見は以下の通りである。

- HPCI の将来構成を次期 SINET に反映していただきたいので、理化学研究所計算科学研究機構のメンバを次期ネットワークの設計に参加させて欲しい。  
→スパコン、ネットワーク双方に互いの専門家を入れ協同を図ることは、今後この分野を健全に発展させる上で非常に重要であると認識している。NII 側でもどのような取り組みができるか検討していきたい。逆に HPCI の委員会にネットワークの専門家を入れることも検討願いたい。
- 次期構想は非常に興味深い。一方で、今後クラウド化が進行すると、東京一極集中になりトラフィックが分散できない可能性も考えられるが、次期 SINET の中で分散させることをどのように考えているか。  
→非常に重要なポイントと認識している。高信頼化を考えると、基本はクラウドに供する DC の地方への分散化と考えている。具体的な検討は企画作業部会で議論したい。  
→3.11 以降、iDC はそれなりに分散化してきている。経済性をみながら検討を進めたい。
- 年 40%のトラフィックの増加見込みは、一般的な Internet とは違い、高エネルギー、天文分野等、特殊用途が多いアカデミック特有の傾向を踏まえていることを説明できるように、トラフィックの中身について分析をしておく必要がある。

→現在、どの機関がどのくらい利用し、どこの伸び率が大きいのか、フロー解析に着手したところである。トラフィックの読みを正確にするのは難しいが、丁寧に解析、積み上げを行い、より精緻なネットワークデザインが出来るよう、作業部会等でデータをお示ししながら進めさせていただければと考えている。

- ・ 海外研究ネットワークが 500Gbps レベルを目指している中で、次期 SINET も同様の広帯域化を目指しているということは非常に心強く思う。文部科学省の会議で常々感じていることだが、SINET が日本の科学技術を支えているという重要性や、毎年の概算要求で NII 側に奮闘いただいて運営されているという認識が薄いように思われる。この現状は強く訴えていきたい。また、今年度から文部科学省に学術情報委員会が設置され、アカデミッククラウドについても議論されているので、NII の作業部会と連携をさせていただければありがたい。

→学術情報基盤作業部会から学術情報委員会になり、我が国の学術インフラについての議論では西尾先生に陣頭指揮をとっていただいている。ぜひ引き続きご指導を受けながら広くご理解頂くような努力をしていきたい。

#### ④ 企画作業部会報告

安達委員から、資料 4 に基づき、活動報告(次期 SINET、学術クラウド推進に向けたフリーディスカッション)があった。他の委員からの意見は以下の通りである。

- ・ ノード校のアクセス回線については、各大学で経費負担をする方向でよいと思うが、アカデミッククラウド等の対外的なナショナルサービスを提供する場合、アクセス回線を増速したいという事情があるかもしれない。これらの予算をすべて各機関に頼るのは難しいので予算確保に何らかの工夫が必要である。
- ・ 生活トラフィックに関するアクセス回線については、大学の通常経費で負担できない額ではないが、研究プロジェクト用の帯域追加の費用をどこが負担するかが問題になる。また、短期間のプロジェクトに広帯域の回線を引くのは効率的ではない。これらについては SINET で柔軟にサポートしてほしい。

→技術的な面としては、広帯域用のインタフェースを追加することでニーズに応じた回線の増速が柔軟に図れるようなネットワーク設計を行うことを検討している。一方、研究プロジェクトや対外的なクラウドサービス等に伴うアクセス回線増速や SINET バックボーン機器の追加に伴う費用については大きな議論になるかと思われるので、引き続きアドバイスをいただきたい。

#### ⑤ ネットワーク作業部会報告

漆谷委員から、資料 5 に基づき、活動報告(次期 SINET、新サービスモニタ利用)があった。今後は、次期 SINET における学術クラウド基盤に必要なネットワークリソースを検討するため、企画作業部会と密に連携していく旨の説明があった。

⑥ 認証作業部会報告

岡部委員から、資料 6 に基づき、活動報告(学認タスクフォース、サーバ証明書、eduroam)があった。学認の事業化については、新体制が確定した段階で、認証作業部会から事業部に運用が引き継がれる予定であり、現在調整を進めている旨の説明があった。

⑦ 高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根委員から、資料 7 に基づき、活動報告(サンプル規定集の構成文書見直し、普及促進活動の進捗)があった。また、喜連川本部長から、セキュリティは重要な話題であるため、引き続き活動を継続してほしい旨のコメントがあった。

以上